



これまであたりまえだった日常に一区切りをつけ、親しかった人との別れもある3月。少し緊張しながら、新しい環境へ、ステップを踏み出す4月。新たな一歩を踏み出すためには、そのためのエネルギーが必要であり、残されたもう片方の足がしっかりと地に着いていなければならぬ。

管内すべての学校が修了式を行った3月24日。「出発式」と称する催しに参加した折、こんなことを考えた。筆者が参加した出発式とは、さまざまなきらびにより学校に通うことが難しい

子どもたちのために、関係する大人が催したものである。子どもたちのために、関係する大人が催したものである。少くない。

釧路市教育委員会は、不登校の子どもたちを支援する事業を実施しているが、その一つに、釧路子ども家庭支援センターを拠点にした「ファースト・ステップ・プログラム」がある。平

子どもたちの居場所

一人ひとり尊重する学校に

と友だちとのつながり、さらに大人の丁寧なかかわりによって育まれる自己肯定感が、この子どもたちの「いま」に必要なのである。そして、言葉で表現されることはないが、彼らが求めていくものでもあろう。

ここで、時間をかけて丁寧に蓄えられたエネルギーは、3月、4月の節目をきっかけにして、新たな一歩を踏み出す勇気になるとともに、それを支えるための軸足にもなる。

いま、子どもたちの中には、学校ではなく、このような居場所とのつながりが必要とする者がいる。一方、この子どもたちが次のステップとして「学校へ」と歩を進めるとき、それを包摂し、一人ひとりのあり様を尊重する学校であって欲しいと強く願う。

(戸田 竜也)

とだ・たつや 北海道教育
大学釧路校講師